

# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

## No.107



## 7月

発行／公益社団法人国際観光施設協会  
総務委員会  
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋  
2-8-5 多幸ビル九段2階  
TEL03-3263-4844  
FAX03-3263-4845  
E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp  
URL : http://www.kankou-fa.jp

2016年7月12日

## 観光庁との関係強化

副会長 兼平 慎

当協会の通常総会は、6月17日に開催され、200名を超える出席者の中無事終了しました。総会の中で発表された平成28年度の事業計画では、国際観光振興に寄与する技術を基盤に社会貢献をする唯一の公益社団法人として、技術系の会員のパワーを集集し、観光という側面から中長期的な視野を持って社会的事業活動を行うため、法人個人の会員に対してCSV的手法の有効性を啓発することを掲げております。皆様の一層のご活躍を期待します。

さて、広報委員会では、協会情報誌「観光施設」の特集記事として、観光庁田村長官と鈴木会長との対談を予めから企画し、6月8日に実現しました。政府が打ち出した「明日の日本を支える観光ビジョン」に関して目指していることや、その思いについて田村長官より大局的なお話を頂戴し、鈴木会長からは、当協会の目指していることを発信することができました。鈴木会長からは、この「明日の日本を支える観光ビジョン」に関連させながら、美蓄木道、エコ・小活動、アルプス山岳郷の地域DMO、「安全の手引き」などについて協会のPRや提案をいた

しました。

その後、観光庁の各ご担当者より、「明日の日本を支える観光ビジョン」の質問に対し、外国人旅行者向け災害時情報提供アプリなどの多言語対応や無料WiFiでの利用計画、生産性向上に関する取組み、アルプス山岳郷の地域DMO、宿泊施設の整備に着目した容積率緩和制度の創設、滞在型農山漁村の確立・形成、MICE誘致の促進について質問に対する回答を頂きました。長官との対談を含め延べ2時間弱の丁寧なご対応を頂き、また、観光庁に対する当協会の良いアピールの機会にもなりました。

なお、長官との対談の様子は、7月中旬に発行する「観光施設」銀河に、各ご担当者からの回答については、10月の紅葉に掲載されますので楽しみにしてください。

最後に、広報委員会では、企業会員の皆様方のPR記事を広告と共に掲載するページを設けました。既に、数社実現をしております。是非ともご活用頂けるようご検討お願い申し上げます。

## 平成28年度の通常総会 報告

去る6月17日午後、三菱ビル・コンファレンススクエア エムプラスにて平成28年度通常総会が開かれました。梅雨の狭間の好天にも恵まれ、お天気ともども晴れやかな総会となりました。総会議案は滞りなく承認されました。

### 【会長挨拶要旨】

先日、観光庁の田村長官と対談する機会を得、長官から掲げられた「明日の日本を支える観光ビジョン」について伺い、当協会からは4つのメイン研究テーマの状況を報告しました。そのうちの2つをご披露します。

- ①サービス産業の生産性向上についてです。これまで6年間取り組んできたエコ・小活動のノウハウを活用し宿泊業の生産性向上につなげるよう、日本生産性本部からの受託事業として、対象旅館の調査に入ったこと。
- ②地域DMOにアルプス山岳郷が候補法人として登録されたことです。世界に冠たる山岳リゾートとして上高地、乗鞍、槍穂高、白骨、奈川、沢渡の6地域を連携させるための支援活動を実施しています。今後の活動に注目し、またご支援いただきたい。

### 【来賓挨拶要旨】

観光庁 観光産業課長 西海重和氏より最近の動きとして観光庁が取り組んでいる2つの課題についてお話をいただきました。

- ①2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて宿泊施設の不足に対応するため国土交通省より容積率の緩和方針が打ち出され新設、増改築に現行の1.5倍以下かつ+300%を上限に適用することを各自治体に通達したこと。宿泊施設の不足は大都市部に限らず、最近では北陸新幹線の開業による北陸地方や大型クルーズ船の寄港地などでの対応が求められている。
- ②JTBより大規模な個人情報流出したが、世界的に特に金融業、旅行・宿泊業界が狙われており、再発防止策を講じて参る。

## 【総会】

|                    |   |
|--------------------|---|
| 議案                 | 役員を選任 報告  |
| 第1号議案 平成27年度事業報告   | 第3号議案として理事中山智雄氏、見並陽一氏、宮武茂典氏の退任に伴う役員の一部選任を行い原案通り承認されました。 |
| 第2号議案 平成27年度収支決算報告 | 理事 福内直之氏（一般社団法人 日本ホテル協会 専務理事）                           |
| 報告                 | 理事 粉川季雄氏（一般社団法人 全日本ホテル連盟 専務理事）                          |
| 1 平成28年度事業計画       | 理事 久保田 穰氏（公益社団法人 日本観光振興協会 副理事長）                         |
| 2 平成28年度収支予算       |   |
| 第3号議案 役員の一部選任      |   |

## 【総会関連行事報告】

第1部のセミナーは、三菱地所設計建築設計二部部長の清水聡様に「丸の内の歴史と大手町・丸の内・有楽町地区の街づくり」と題してご講演頂きました。

江戸時代以降の丸の内の歴史から、明治22年に岩崎弥之助が丸の内の土地を政府から購入した経緯が紹介されました。そして、日本初の貸しビル三菱一号館と一丁倫敦の開発に始まり、丸ビルの建設へと話が進みました。更に、戦後の復興と、軒高を31mに揃えたオフィスビル開発、そして仲通りの整備から、官民協調の街づくり手法のお話がありました。また、最近の大手町の連鎖型再開発事業のダイナミックな街づくり手法が紹介されました。同地区の最新の宿泊施設にも話が及び、大手町に7月開業の話題の温泉旅館「星のや 東京」の特徴的なデザインも紹介されました。

最後に、常盤橋街区の再開発では、高さ390mの日本最高のビルが2027年に予定され、同地区の将来の姿とともに、三菱地所が手掛ける街づくりの基本理念が紹介されました。

一時間強に亘る清水様の講演はとても興味深く、このセミナーは200名の参加者を集めました。

総会関連行事第2部の情報交歓会では観光庁加藤地域振興部長、日本政府観光局 松山理事長、国土交通省海事局 若林次長よりご挨拶いただき日本旅館協会 針谷会長のご挨拶と乾杯のご発声により盛会のうちに開催されました。途中で新入会員のご紹介をいたしました。203名の参加者のもと大内副会長の中締めで無事終了しました。

## 水上クルーズセミナー 報告

一般社団法人まちふねみらい塾と共催された水上セミナーは、若干天候には恵まれなかったものの80名を超える参加者を得て盛況に終わりました。

天王洲を出て羽田沖を廻りレインボーブリッジをくぐって築地、浅草に北上する船上から観光資源、都市インフラとしての東京の水上交通、水辺の空間の現状を知り、あるべきかたちを考えさせられる有意義な3時間でした。

水上からの風景が陸上と異なるのは当然ですが、江戸以来の歴史がよりはっきり見て取れるのが面白い見るものの由来を聞くだけで都市形成の歴史を学べます。

一方で水際空間の使い方、楽しみ方が全く未熟であるのは明らかで、その改善の足枷となっているのは行政の縦割りや近隣同士の足の引っ張り合いに加えて、それらを乗り越える努力を怠っている我々計画者自身の行動力の欠如なのかも知れないと思います。

## 田町スマエネパーク見学会 報告

平成26年11月から運用を開始した「田町スマエネパーク」の見学会を実施しました。当日は蒸し暑い日にもかかわらず多くの方（定員20名）に参加いただきました。

田町スマエネパークは、港区、愛育病院、東京ガスエンジニアリングソリューション(株)、東京ガス(株)が官民連携したプロジェクトで、「つくる」「つながらる」「みえる」をキーワードに、人が安心・安全・快適に過ごせる「低炭素で災害に強いまちづくり」を実現しています。

将来的には現在隣地で建設中の「(仮称)TGMM芝浦プロジェクト」に構築される「第二スマエネセンター」と連携され、田町駅東口北地区全体におけるエネルギー需給を最適化し、さらなる低炭素化を図る構想です。

当日は女性オペレーターによる施設の各機器、設備の説明に加え、それぞれ連携している施設の見学を行いました。その後、活発な質疑応答後、懇親会場へ移動しました。

短い時間でしたが有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

## 事務局 夏休みのお知らせ

平成28年8月11日(木)～15日(月)

## ♥編集後記♥

平成28年度総会が盛大に行われ滞りなく終了しましたが、28年度の事業計画が報告されていよいよ新年度の事業が本格的に始動します。

総会終了後に情報交歓会が行われましたが、大変な盛況で、新たな協会事業へ向って皆様方が関心を寄せて居られますことを改めて感じる事ができました。

総会の折に昨年の総会后に新たに入会された16社と個人会員1名の方々が紹介されましたが、新しい力を加えた全員で、新しい目標に向かって頑張りたいと思います。

Y. K